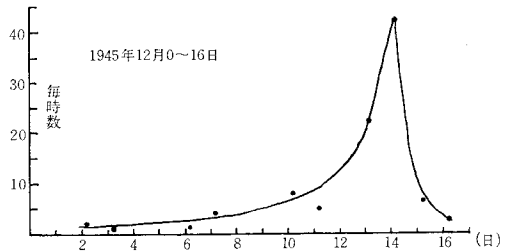
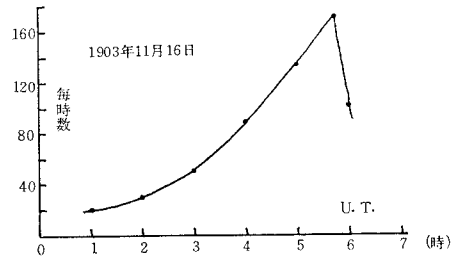


☆ 11月の天文暦 ☆

日 時	記 事
1 23	望
5 10	水星 外合
8 13	立冬 (太陽黄経 225°)
8 16	下 弦
8 22	海王星 合
14~19	しし座流星群
16 16	朔
18 13	月 金星の 3° 北をとおる
18 16	月 火星の 3° 北をとおる
23 7	金星 火星の 0.05° 南をとおる
23 10	小雪 (太陽黄経 240°)
23 14	月 土星の 2° 南をとおる
24 17	上 弦
27 9	月 木星の 4° 南をとおる



しし座、ふたご座流星群

しし座流星群は 33 年ごとに大出現のおこることで知られている。つぎの活動期は 1965 年か 66 年とされている。ところがすでに、1961 年 11 月 16, 17 日に、かなりの活動のあったことがアメリカなどで観測された (天文月報, 1962, 4 月)。テキサス州ではこれらの両日、1 時間に 50 以上のしし座流星が見られ、大光度のものも多くふくまれていたという、1962 年には、各地とも毎時数コていどしか見られず、めだった活動の報告はない。

肉眼による流星の観測法はいろいろあるが、もしも流星雨のようなめずらしい現象のおこったばあいは、時間を追って流星数をしらべるのが、もっとも意義がある。方向をきめて、その視野に 1 分~数分ごとにあらわれる

流星数を記録する。1 人が一度に見わたせる空の範囲はきまっているから、この観測から全天にあらわれた流星数が推定できる。余裕のあるときは、1 つ 1 つの流星の等級を記録しておくとなおよい。上図はふるい観測だけが計数記録の例である。しし座流星群の活動期はふつう 11 月 14~17 日、輻射点は 10^h00^m+22° でしし座の大鎌のなかにある。

12 月にはふたご座流星群が活動する。最盛期は 13, 14 日で毎時 3, 40 コが数えられる。12 月はじめからあらわれはじめるので、毎日時間をきめて観測を行なうと活動のありさまを知ることができる。下図は 1945 年に東京で観測した例である。このように、ふつう 15 日以後は、出現数が急に減じる。輻射点は 7^h24^m+33° でふたご座 α 星の近くにある。

東京における日出入および南中 (中央標準時)

XI月	夜明	日出	方位	南中	高度	日入	日暮
日	時 分	時 分		時 分		時 分	時 分
1	5 29	6 2	-16.9	11 25	40.0	16 47	17 20
10	5 37	6 11	-20.2	11 25	37.1	16 30	17 13
20	5 46	6 20	-23.6	11 26	34.8	16 32	17 6
30	5 55	6 30	-27.0	11 29	32.8	16 28	17 3

各地の日出入補正值 (東京の値に加える)

(左側は日出, 右側は日入に対する値)

分 分	分 分	分 分	分 分
鹿児島 +29 +45	鳥 取 +21 +22	仙 台 +1 -9	
福 岡 +34 +31	大 阪 +15 +15	青 森 +7 -15	
広 島 +26 +32	名古屋 +10 +13	札 幌 +9 -23	
高 知 +21 +27	新 潟 +7 -2	根 室 -7 -40	

